

第二次北九州市健康づくり推進プランの評価結果からみる 歯科口腔保健に関する現状と課題

1 指標の達成状況（最終評価結果）

本市の健康増進計画「第二次北九州市健康づくり推進プラン」で設定した歯・口腔の健康に関する指標について、各種歯科健（検）診や「健康づくり及び食育に関する実態調査」等の結果に基づき、達成状況を確認した。

全指標 15 項目の内、**目標を達成(A)5項目[33%]**、**改善した(B)4項目[27%]**、**変化なし(C)5項目[33%]**、**目標から離れた(D)1項目[7%]**であった。
(詳細は 2 ページ)

	アウトプット指標(活動指標)	アウトカム指標(成果指標)
(A) 達成	○ 歯科健診受診率の向上 (妊産婦・1歳6か月児・3歳児)	○ 20歳代で歯肉に炎症所見のある者の減少 ○ 60歳で進行した歯周炎のある者の減少 ○ 自分の歯を有する者の増加(60歳で24本) ○ " (80歳で20本)
(B) 目標に 近づいた	○ 歯周病検診受診率の向上	○ 乳幼児・学齢期でう蝕のない者の増加 ○ 40歳で喪失歯のない者の増加 ○ 60歳で未処置歯のある者の減少
(C) 変化なし	○ 歯周病と糖尿病の関係を 知っている者の増加(40歳以上) ○ 口腔ケアが誤嚥性肺炎を 予防することを知っている者の 増加(65歳以上)	○ 咀嚼良好者の増加(60歳代) ○ 中学生で歯肉に炎症所見のある者の減少 ○ 40歳で進行した歯周炎のある者の減少
(D) 目標から 離れた	—	○ 40歳で未処置歯のある者の減少
(E) 評価困難	—	—

2 「健康づくり懇話会」における意見等（抜粋）

- 乳幼児のう蝕有病率や歯科健診受診率の状況は全国や政令市と比較すると悪く、取り組みの継続が必要である。
- 市の教育委員会は令和3年度に「学校における歯と口の健康づくり推進計画」を策定し、小学校でのフッ化物洗口事業を開始した。令和4年度の速報値において、う蝕の割合等が改善している。
- 共働き家庭が増えていることと、子どもの口腔の健康状態には、大きな関連があると推測される。経済的理由で、歯科医院での処置が思うように受けられないとの声も聞く。

第二次北九州市健康づくり推進プランにおける
 歯科保健推進に関する指標の達成状況

(関係指標のみ抜粋)

資料5-2②

基本目標Ⅰ データに基づく生活習慣病予防及び重症化予防の推進

指標の項目	ベースライン値	(主にH28年度)	現状値 (R5.3月時点)	(年度)	評価結果	目標 (R4年度) 北九州市	目標 (R5年度) 北九州市	【参考】			
								細項目	全国平均(直近値)	政令市順位(R4)	
プ ア ウ ト ト	歯周病と糖尿病の関係を知っている者の割合の増加(40歳以上)		33.2%	(H28)	33.9%	(R4)	C	50.0%	現目標値	-	-
	歯周病検診の受診率の向上	(40歳、50歳、60歳、70歳の合計)の受診率の向上	4.5%	(H28)	5.6%	(R3)	B	10.0%	現目標値	5.0% (H30)	7/20
ア ウ ト カ ム	20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少		37.6%	(H28)	22.2%	(R4)	A	25.0%	21.3%	21.1% (H30)	-
	40歳で喪失歯のない者の割合の増加		81.6%	(H28)	87.2%	(R3)	B	90.0%	現目標値	73.4% (H28)	-
	40歳で未処置歯を有する者の割合の減少		35.5%	(H28)	38.7%	(R3)	D	10.0%	現目標値	35.1% (H28)	-
	40歳における進行した歯周炎を有する者の割合の減少		50.2%	(H28)	51.9%	(R3)	C	25.0%	現目標値	44.7% (H28)	9/18
	60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加		69.7%	(H28)	74.4%	(R4)	A	更に改善	現目標値	74.4% (H28)	-
	60歳で未処置歯を有する者の割合の減少		33.8%	(H28)	27.3%	(R3)	B	27.0%	現目標値	34.4% (H28)	-
	60歳における進行した歯周炎を有する者の割合の減少		65.5%	(H28)	62.5%	(R3)	A	65.0%	58.0%	62.0% (H28)	9/17

基本目標Ⅱ 多様な背景の市民に対応する健康づくり

指標の項目	ベースライン値	(主にH28年度)	現状値 (R5.3月時点)	(年度)	評価結果	目標 (R4年度) 北九州市	目標 (R5年度) 北九州市	【参考】			
								細項目	全国平均(直近値)	政令市順位(R4)	
ア ウ ト プ ッ ト	歯科健康診査の受診率向上	妊産婦	24.7%	(H28)	34.0%	(R3)	(A)	30.0%	35.2%	-	-
		1歳6か月児	68.3%	(H28)	75.8%	(R3)	(A)	75.0%	78.7%	-	19/19
		3歳児	63.2%	(H28)	73.5%	(R3)	(A)	70.0%	77.6%	-	19/19
	口腔ケアが誤嚥性肺炎を予防することを知っている者の割合(65歳以上)		55.1%	(H28)	54.1%	(R4)	C	70.0%	現目標値	-	-
ア ウ ト カ ム	乳幼児・学齢期でう蝕のない者の割合の増加	3歳児	76.9%	(H28)	84.4%	(R2)	(A)	80.0%	90.7%	88.2% (R2)	16/20
		12歳児	57.0%	(H28)	58.7%	(R3)	(C)	60.3%	現目標値	71.7% (R3)	20/20
	中学生における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少		22.7%	(H26)	22.8%	(H30)	C	20.0%	現目標値	-	-
	80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加		45.9%	(H28)	63.3%	(R4)	A	47.0%	74.9%	73.4% (H28)	-
	咀嚼良好者の割合の増加(60歳代)		67.7%	(H28)	66.7%	(R4)	C	80.0%	現目標値	71.5% (R1)	-

【評価基準】		
区分	評価内容	主な判断基準
A	目標達成	目標値以上
B	目標値に近づいた(改善)	ベースライン値から現状値までの数値変化の割合(増減率)が、指標の方向に対して、+5%超
C	変化なし	増減率が指標の方向に対して±5%以内
D	目標から離れた(悪化)	増減率が指標の方向に対して-5%超
E	評価困難	増減率の比較ができない等により評価が困難

ライフステージごとの指標の達成状況について

資料5-2③

	【妊娠・出産期】 (マイナス1歳)	【乳幼児期】 (0～6歳)	【学齢期】 (7～15歳)	【青年期】 (16～29歳)	【壮年期】 (30～64歳)	【高齢期】 (65歳～)										
アウトプット指標	<p>A 歯科健診受診率の向上</p> <p>A 妊産婦 A 1歳6か月児 A 3歳児</p>				<p>B 歯周病検診受診率の向上 (40・50・60・70歳)</p>											
					<p>健康情報の認知度</p> <p>C 歯周病と糖尿病 (40歳～) C 口腔ケアと誤嚥性肺炎 (65歳～)</p>											
アウトカム指標		<p>B う蝕のない者の割合の増加</p> <p>A 3歳児 C 12歳児</p>			<p>未処置のある者の減少</p> <p>D 40歳 B 60歳</p>											
			<p>進行した歯肉炎のある者の減少</p> <p>C 中学生 A 20代 C 40歳 A 60歳</p>													
					<p>自分の歯を有する者の増加</p> <p>B 40歳で喪失歯なし A 60歳で24本 A 80歳で20本</p>											
						<p>C 咀嚼良好者の増加 (60歳代)</p>										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>評価内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>目標達成</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標値に近づいた (改善)</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>変化なし</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>目標から離れた (悪化)</td> </tr> </tbody> </table>						区分	評価内容	A	目標達成	B	目標値に近づいた (改善)	C	変化なし	D	目標から離れた (悪化)
区分	評価内容															
A	目標達成															
B	目標値に近づいた (改善)															
C	変化なし															
D	目標から離れた (悪化)															

現行プラン
健康づくりスローガン

健康寿命の延伸について

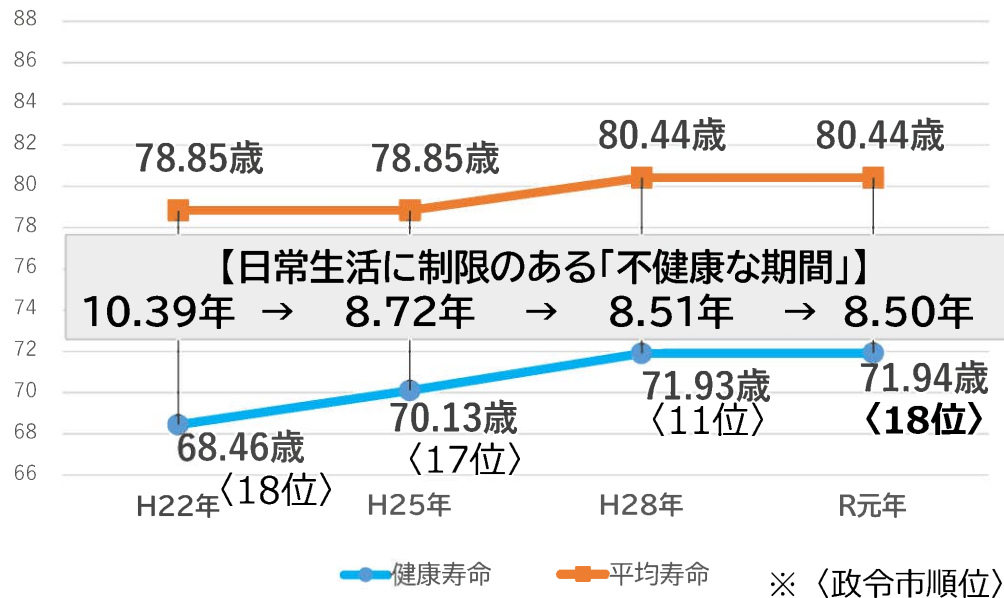
「オール北九州で健康(幸)寿命を延伸する」 - 元気でGO! GO!プラス2歳へ スクラムトライ!

「不健康な期間」を短縮することができた

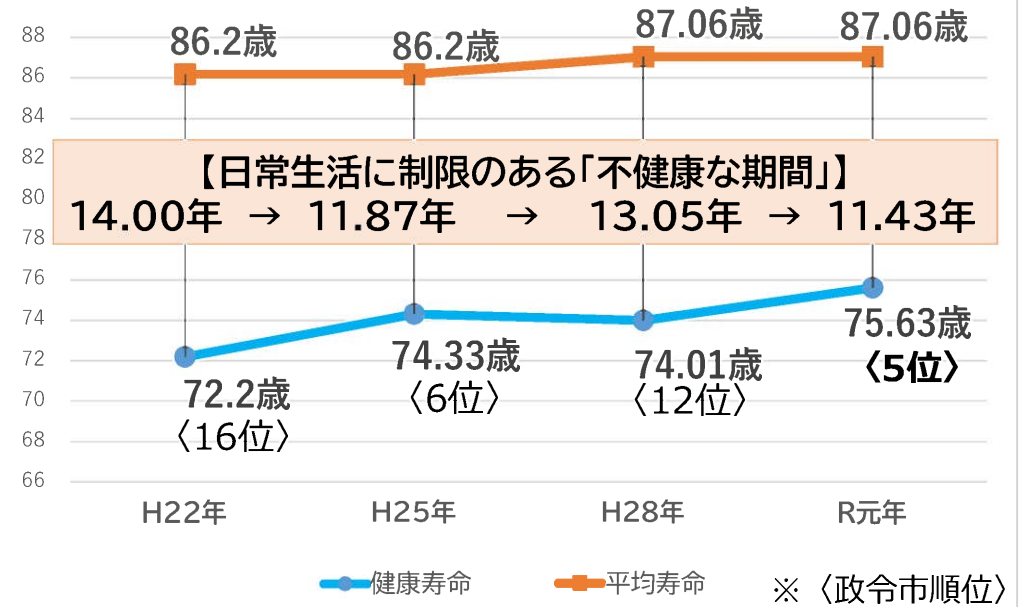
- ▶ 平均寿命の伸び以上に健康寿命を延ばす（不健康な状態になる時点を遅らせる）＝日常生活に制限のある「不健康な期間」を短くすることについては、平成22年から令和元年までの9年間で、健康寿命の増加分が男性1.89年、女性2.57年上回った。

日常生活に制限のある「不健康な期間」 (R元年度値-H22年度値)
男性：1.89年 縮小 女性：2.57年 縮小

【平均寿命と健康寿命の差(北九州市・男性)】



【平均寿命と健康寿命の差(北九州市・女性)】



本市の現状について

資料5-2⑤

人口構造

■人口の推移 【出所】 住民基本台帳(R5.3.31時点)

○ 総人口・生産年齢人口・年少人口の減少

- ・総人口：923,948人 昭和54年をピークに減少傾向
- ・生産年齢人口(15～64歳)割合の減少：56.8%
- ・年少人口(0～14歳)割合の減少：11.9%
- 昭和40年(25.8%)から急激に減少傾向
- ・出生数 6,304人 [R3年人口動態統計]
- 昭和47年(19,995人)以降減少傾向

○ 後期高齢者人口(75歳以上)割合の増加:17.2%

《参考》全国 15.0% [R3.9.15総務省統計局資料]

○ 高齢化の進展

- ・高齢化率の上昇：31.4%
- 《参考》全国 29.1% [R3.9.15総務省統計局資料]
- ・人口の約3人に1人以上が高齢者
- ・政令市の中で最も高齢化率が高い

医療費・介護給付費

■医療費

○ 一人当たり医療費(年齢調整後) R2年度

- 国民健康保険 : 398,586円(政令市 第4位)
- 後期高齢者保険: 1,115,208円(政令市 第2位)

■介護給付費

○ 認定率 R3年度

- 第一号被保険者 22.2%(国 18.9%)
- 第二号被保険者:0.4%(国 0.4%)
- 給付費(R3年度) 約976億円(地域支援事業費含む)

世帯・働き方の変化、社会の多様化

■世帯構造 【出所】 総務省「国勢調査」(各年10月1日現在)

○ 世帯数は増加

- ・R2年:436,245世帯 (H27年比2.3%増加)

○ 核家族世帯の割合は減少し、代わって単独世帯の割合が増加

○ 未婚率は男女ともに上昇

- ・未婚率(15歳人口に占める割合) 男性:30.7% 女性:23.6%
- (男女ともH27年比0.2ポイント上昇)

○ 高齢者のみの世帯が増加

- ・R2年:119,950世帯 (H27年比7.1%増加)

■多様な働き方による社会の変化

- ・女性の社会進出
- ・育児と介護の両立

■感染症対策をふまえた取組みの展開

■DXの加速

本市・国の主な動向

■本市の動向

- ・第二次北九州市健康づくり推進プラン(歯科口腔保健推進計画を含む)の施行:H30～R5
※国計画「健康日本21」に合わせて1年延長
- ・「健康寿命プラス2歳」をスローガンに取組みを行い、
H22年～R元年までに、男性3.48年、女性3.43年増加

■国の動向

- ・「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項(第一次)」の施行:H25～R5※他計画に併せ1年延長
- ・「健康日本21(第2次)」の施行 : H25～R5 ※他計画に併せ1年延長
- ・健康寿命延伸プラン (R元年5月～)
〈目標〉2040年までに3歳延伸し、75歳以上とする